

「雲は御足の塵(ちり)」(2024. 9. 15)

主は忍耐強く、その力は大きい。主は決して罰せずにはおられない。その道はつむじ風と嵐の中にあり、雲は御足の塵である。(ナホム 1:3)

雲は、大気中にかたまって浮かぶ水滴または氷の粒である。いろんな形をして流れていく。たまに細長い線状の雲をみれば、そこを飛行機が通ったということが分かる。旧約の預言者ナホムは、思いがけない視点で雲を見る。神が通られた時の御足の塵である。主は忍耐強いが、罰すべきことは罰する方であり、つむじ風と嵐の中にある道を通して罰し、雲はその主が通られたしるしだ、というのである。



苦痛と挫折に満ちたある日、ある人がこのみ言葉を繰り返し考えます。そして、ベランダに出て雲を捜すと、巨大な雲があり、頭の上を通過するのを見て、元気を取り戻したのです。「神様はすでにずっとここにいて下さった」と、首が痛くなるまで空を眺めながら心の中で繰り返したのです。やがて、風が雲を運び去り、その人の苦しみも雲と共に消えたのです。主の現臨のしるしを繰り返し思い返す恵みがここにあります。私たちには雲よりも確かな主の現臨のしるしがあります。聖餐です。この人がナホムの預言を繰り返したように、私たちは聖餐の恵みを思い返し、日々歩みたいと思います。

9月16日(月・祝)、思いがけないプレゼントが届きました。秋南教会との「合同信徒研修会」です。同じ横手の伝道を担う教会として、秋南教会と一緒に何かをしたい、と思ってきました。特に無牧になってからその思いが強くなったかと思います。今春、牧会者が与えられ、その就任式には当教会から10名がお祝いに駆けつけました。ここにも現れています。秋田伝道に熱く奉仕された手束正昭先生の遺志を受け継いで、高砂教会から新谷和茂主任牧師と2名の信徒が来横されます。手束先生と伝道に教会形成に汗してこられた恵みを伺い、私たちの伝道・教会形成に活かしたいと思います。

また、9月29日(日)は長老による奨励があり、牧師は檜山教会の奉仕です。横手教会の地区宣教協力の一環です。このことを覚えつつ長老、牧師のために、そして檜山教会のために祈り下さい。